

第2回草津市市民参加条例検討委員会 次第

日 時：平成24年2月27日（月）
午後10時から

場 所：市役所4階 行政委員会室

開会

1 あいさつ

2 話題提供

・ポーリン ケント 委員

テーマ：「誰が、どのように参加するか？」

・山口 洋典 委員

テーマ：「学生の地域参加を巡る視点～そもそも市民参加とは…」

3 検討事項

(1) 第1回検討委員会の振返り

(2) 意見交換

閉会

誰が、どのように参加するか？

市民

- ・ 草津で生活、仕事、勉強をしている人々
草津住民、草津市を活動の拠点とする人々
- ・ 国際的な観点から
多文化共生社会 → 外国人だけではない
→ オールドカマー、ニューカマー、女性、シニア、若者、子ども、障害者、外国籍の人など
それぞれの背景を持っている「市民」が地域社会において、さまざまな参加ができ、
活気のある社会にする
地域構成員として対等である。それぞれの生活を保障するための参加。

参加

- 投票の義務化、住民の投票制度
- 審議委員会の割当制度 男女の人数=半々 若者（大学生）
- 行政による参加の推進（と教育）
- 公共施設を住民に提供する
健康保健・年金への加入、外国人のための医療などを
行政ボランティア・公務員ボランティア（生活相談：野宿者の生活相談・外国人相談ネットワーク、社会保障運動、行政の民主化、公務員ボランティア活動の推進）
PTAなどの団体に共働き、外国籍の人の参加を可能にする工夫、住民の学校への参加
（留学生による文化紹介、小学生へ行政の仕事紹介、退職者の参加など）

参加の程度

- ライフサイクルと参加（全面的参加 ←→ 一回のみ）
- 参加=楽しい、気楽

情報収集・提供・公開・開示

- 市長への手紙、市民等議会
- ワークショップ、アンケート、パブリック・コメント、タウン・ミーティング、出前講義、協議会、懇談会
- ・・・SNSメディアの活躍、多言語化？、わかりやすい日本語

学生の地域参加を巡る視点～そもそも市民参加とは…

キーワード 市政 / 承認 / 役割

1. 「市民参加」とはを尋ねてみました : 2/18「減災社会の地域デザイン」にて

- ・自主性をもとに社会にかかわる (60代男性・市外在住)
- ・企画に参加すること (50代男性・市外在住)
- ・市民や行政市民が参加するものでなく、市民が自ら活動するものであると思います。現在は、それができていないのが現実だと思います (40代男性・市外在住)
- ・ひとりひとりを尊重したり個人をみんなが知っている環境を作ることかな、と思います。(30代女性・市外在住)
- ・楽しみながら日常化出来るモノ (30代男性・市外在住)
- ・人に興味を持つこと。自分が住むまちをよりよく知り、愛着を持つこと。自分たち自身で自分たちのまちをつくり上げる。(20代女性・市外在住)
- ・1人1人が場(地域)に対して何が出来るかを考え実践すること (20代女性・市外在住)
- ・市民や行政や学生などが自分の住んでいる地域や行っている活動について新しい気づきを得るきっかけ (20代男性・市外在住)

2. 『絶望の国の幸福な若者たち』より : 古市 遼寿 (2011, 講談社)

「距離への渴望」(浅野智彦「距離を渴望する若者たち」『週刊読書人』2010.11.5)

(西野カナ「会いたくて会いたくて」の歌詞「会いたくて会いたくて震える」に対して)

- ・「会いたいののに会えない」というのは、逆に現代におけるロマン(古市,2011,p.180)

「社会」に関心がある若者が世論調査では増えているのに(古市,2011,p.181)

- ・彼らと「社会」をつなぐ回路が不在
- ・忙しい毎日の生活の中で何をしたらいいかわからない
- ・そもそもいったい何をしたら「社会」のためになるかもわからない
- ・自分に合ったボランティアの探し方もわからないし、敷居が高そう
- ・選挙?行かなきゃとは思うけど、どうせ誰に投票しても同じ

「政治的無力感」(古市,2010,p.237)

- ・「僕なんか選挙に行ったら申し訳ない」(ユウスケ、大学生、21歳、男)
- ・選挙は自分たちとは違う世界で「偉い人」たちが勝手に行うもの
- ・若者たちはあまりにも社会志向・他人志向すぎ
- ・「自分たち」の問題である政治には興味がないのかも知れない
- ・カンボジアに学校はつくるし、アフリカ援助には必死
- ・「自分」の所属する地方自治体で何かアクションを起こそうとは思わない

「貧困は未来の問題、承認は現在の問題」(古市,2010,p.246,p.251)

- ・「小さな有名人」はインターネット以前からたくさんいた
- ・インターネットではより手軽に「誰でもマスメディア」感覚が味わえる
- ・ツイッターの提供する「共同性」に、「社会を変える」という「目的性」は回収

3. 果たして、市民参加「近い未来」は? : 市民の行政参加を促すために…

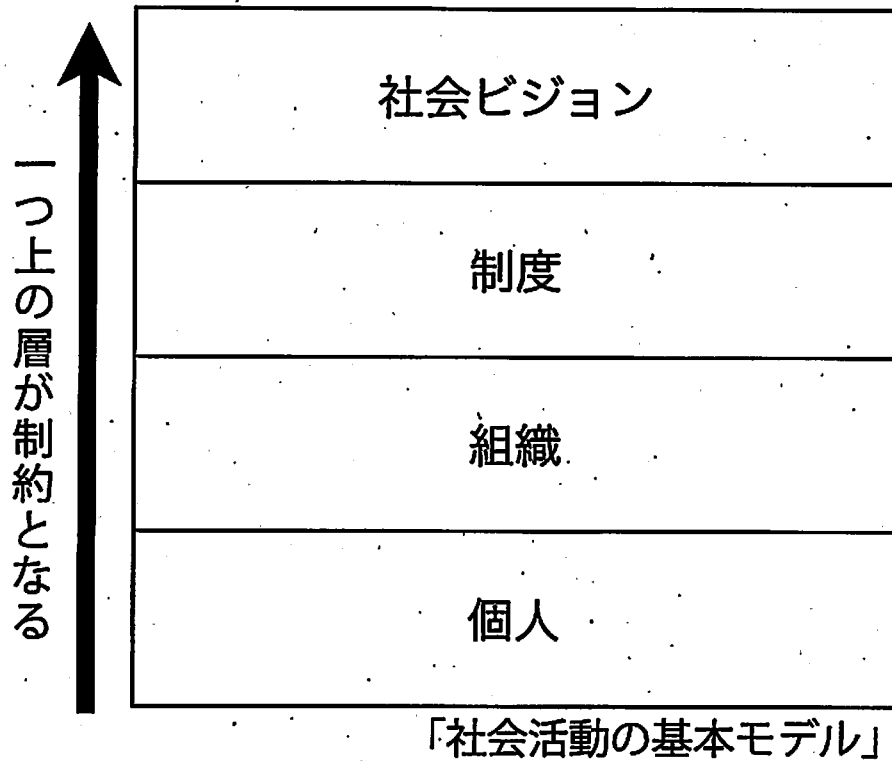
<遠慮がちなソーシャル・キャピタル>(金子郁容ら「コミュニティのちから」,2010:p.157)

「遠慮がち」な人こそが鍵

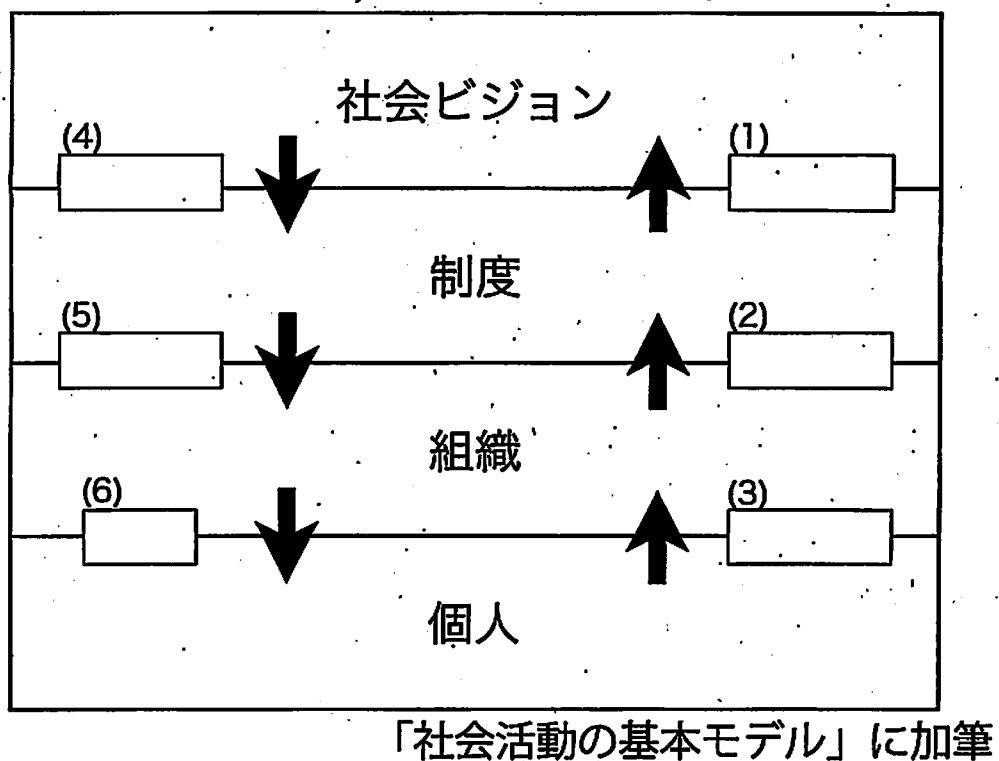
「一つの大波ではなく、たくさんのさざ波のように」

「ツール」に振り回されず、「ルール」を大事に…「役割(ロール)」こそが重要

金子郁容ら『コミュニティのちから』 (p.295)



金子郁容ら『コミュニティのちから』 (p.295)



7つの心の罠にご用心!

問題の巨大さを目の当たりにすると、「心の罠」に陥る。明るい地球の未来のために元気に行動しようと思ったら、こいつを避けなければならない。では、「心の罠」を列挙し、その対処法も示すことにしよう。

1 誰かがどうしたらいいのか知っている（誰かが問題を解決してくれる）。

残念だが、その「誰か」さんは、どうしてよいのか分からない。解決法など知らないし、解決したいとも思っていない。

2 自分1人ががんばっても、ほかのみんなは何もしないだろう。

この考えが間違っていることは証明できないが、これだけは言える……これは自己実現型の予言である。そう思っていれば、必ずそうなる。しかし、この世界に対する責任は、私たち1人ひとりがとらなければならない。

3 状況全体が見通せないうちは、最初の一步を踏み出せない。

新しい道を知るには、何歩か踏み入ってみるにかぎる。失敗を恐れるなかれ。体験し、学ぶことだ。

4 どれも長期的な問題ばかりだ。とりあえず、目先の問題から取りかかろう。

1年たっても、長期的問題はやはり長期的問題のままである。しかも、長期的問題にはできるだけ早く取り組むほうが、解決は簡単で安上りでもある。

5 どうあがいたところで破局はやってくる。あれこれ考えるのはよそう。

誰もが無為無策にいるときにのみ破局は訪れる。多様な人々からなる多元的な社会では、たとえ少数でも、破局に直面したときに変革を求めて立ち上がる人々が現れるものだ。その少数者になろう。

6 心配無用。テクノロジーと市場経済が、すべてうまくやってくれる。

これは、「金づちが家を建ててくれる」といっているようなものだ。市場経済やテクノロジーは、私たちの社会の道具にすぎない。私たちの価値観や願い、資源やその制約が、テクノロジーをかたちづくるのである。テクノロジーをコントロールすることこそ、私たちの責任である。

7 私に何もかも全部できるわけがない。だから、何もしない。

覚悟を決め、多少の時間とお金を捧げ、影響力を行使すること。これこそが君にできることだ。どんな小さなことでもいいから、継続できることに着手すること。そのうち手際よく多くのことをこなせるようになったら、取り組みのレベルを高めればいい。